



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年4月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

～ '07 神通研集会報告 ～

「災害」への取り組み

～ 横浜市港北区～

『ボランティアセンター立ち上げについて』

聴覚障害者だけを対象としたものではありませんが、地震災害が起きた時に、ボランティアに手伝ってほしい人とボランティア出来る人を結びつけるところが、「災害ボランティアセンター」です。全国的にみると社会福祉協議会が中心になって立ち上げています。

支援して欲しい内容を「ニーズ把握カード」に、サポートできる内容（特技・資格等）を「ボランティア登録簿」に記入。「災害ボランティアセンター」が双方をマッチングします。

その「災害ボランティアセンター」を立ち上げるためのマニュアル「災害ボランティアコーディネーターハンドブック」を作成しました。

地域の災害・防災に関する活動に生かしていただけたらと思います。

～ 定例会 ～

3/30(日) '07年度最後の定例会を開催し、サークルの運営方法について意見交換しました。

サークルの最低限のマナーや会員みんなが自主的に動くところ等々、多分わかっているだろう・・・と進めていくと、いつしか会員同士の意識にズレが生じてしまうことがあります。さまざまな考え方の人達が集うサークルに、以心伝心はないものと思って、定期的にまたは、意識のずれを感じた時に、話し合っ確認し合うことが大切です。より良いサークル作りには、会員みんなの力が必要です。

【次回定例会】4/26(土) 10:10～12:00
県民活動サポートセンター 712

～サークル研究班メンバーのささやき～

春休みの最後の週末、あたふたと実家に帰省、久々に関西弁にどっぷり浸かると、身も心もリラックスするから不思議・・・。(別に標準語を日々緊張して話してるわけないんやけどなあ・・・)

言葉って、単なる会話するための道具じゃないんだと、改めて実感。

ろう者にとっての「手話」も、同様・・・

これからも魅力的な手話の世界にどっぷりと浸ってほしい私です。

TARAKO